九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Outcome of patients with functional single ventricular heart after pacemaker implantation: What makes it poor, and what can we do?

兒玉, 祥彦

https://hdl.handle.net/2324/4496125

出版情報：Kyushu University, 2021, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：(c) 2019 Heart Rhythm Society. All rights reserved.

（別紙様式２）

氏　　名	兒玉　祥彦
論　文　名	Outcome of patients with functional single ventricular heart after pacemaker implantation: What makes it poor, and what can we do?
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　塩瀬　明 副　査　　九州大学　　教授　　二宮　利治 副　査　　九州大学　　教授　　山浦　健

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

機能的単心室患者（SV）において、ペースメーカー植込み術は、予後不良因子であることが知られているが、その詳細は不明である。申請者らは、福岡市立こども病院で永久ペースメーカー植込み術を受け、福岡市立こども病院と九州大学病院でフォローアップを受けたSVの全患者を対象に、後方視的な診療録の解析を行った。心房ペーシング群または心室ペーシング頻度の低い患者に死亡例はなかったが、心室ペーシング頻度が 50%を超える患者の生命予後は、ペーシング植込み後 10 年生存率 58.9%、20 年生存率 39.3%であった。また心室ペーシングが高頻度の患者群について心室リード部位別に血漿 BNP 値を検討すると、心尖部リード群 27.0 pg/ml、非心尖部リード群 82.8pg/ml（中央値）と、心尖部リード群で有意に低く（$p = 0.03$）、心室ペーシングを高頻度に要する患者では、心尖部リードが望ましいことが確認できた。

以上の実験結果はこの方面の研究に新知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験結果等について説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格とした。